

全国書画展覧会について

日本一の筆産地「筆の都」広島県熊野町における全国書画展覧会は、昭和6年に全国書き方展覧会として始まり、以来毎年開催し古い歴史と伝統があり、今回で89回を数えます。

国語教育の基礎基本であり、伝統的な日本文化で心の教育の一環としても期待が大きい毛筆書写教育を守る立場から、この展覧会を運営してまいりました。今回はコロナ禍の中、全国の多くの学校の先生方や保護者の皆様に支えられ、全国の小・中学校及び塾等約2,700団体から書写の部、画の部合わせて約11万5千点の作品が集まりました。

この展覧会の特徴は、授業（学校行事）の一環として取り組みやすいようにしていることです。書写の部は学校で使用している書写の教科書から課題が選択できるようにし、画の部は課題・用紙の大きさを自由とし、絵手がみも受け付けています。こうした応募規定から、1学期の代表作品や夏休みの課題として出品していただいています。また、学校と塾等からの応募は、下審査の時から本審査まで一貫して別審査とし、学校での指導に公平を期しています。

6月、全国すべての小・中学校等に展覧会の案内を送付しています。

審査長は、現在の教育課題に適応した内容を審査とするため、文部科学省初等中等教育局教育課程課の教科調査官の先生にお願いし、学習指導要領に則した教育本意の公正な審査をしていただいています。

11月下旬、優秀作品約1,000点の展覧会を熊野町民会館で開催しています。

(例年は表彰式を行っていますが、今回も新型コロナウイルス感染症の影響により中止しました。)

応募者全員に賞状を授与しており、金賞以上の入賞者には本人の作品画像入り賞状としています。

この展覧会は、国内だけでなく海外22カ国32地域の日本人学校等から1,061点の力作が寄せられ、また、中国四川省内江市からは、永年青少年の書画作品が賛助出品されています。海外から出品された作品の中の優秀作品と一堂に展示披露しており、国際色豊かな展覧会となっています。

審査経過報告

◆ 応募総数 115,376点

書写の部 105,182点

画の部 10,194点

全国1,703校(書画延べ1,900校)というたくさんの小・中学校から、また、942団体の塾・個人、それから海外の日本人学校等を含め115,376点の作品を出品していただきました。

6月に全国の小・中学校や塾等に募集要項をお届けし、8月からエントリーが始まり、作品が届き始めました。審査は9月下旬から1点1点、多くの先生方の目を通して、各団体ごとに一次審査を行いました。熊野町近隣の学校現場の先生方にもご協力をいただき、教室での現場指導に評価の観点をおきながら、授業をまじめに取り組んでいる熱心な書きぶりの作品をなるべく取り上げていただきました。学習指導要領に示された目標に沿って、相対評価に配慮しながらも基礎基本の徹底という観点では絶対評価が大きなウエイトを占めました。実生活に生きてはたらく書く力という意味では、名前も大きなポイントです。自分の名前はきちんと正しく丁寧に書くことが大切です。

まず、書写の部、画の部それぞれ全体から、金賞以上と銀賞、銅賞、入選に選り分けました。次に、金賞以上の作品の中から特選以上の作品、書写の部では約3,250点、画の部では約860点を選び出し、更に筆都大賞以上を絞り込んでこれを本審査にけることとしました。

今年度、書写の部の審査長は、文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官の杉本 直美先生と 豊口 和士先生に、また、画の部では同じく文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官の小林 恭代先生にお願いして、10月9日、熊野第一小学校体育館において厳正かつ公平に審査が行われました。最終選考では作品をすべて広いフロアに並べ、吟味に吟味を重ね、熟考して特別賞を選びました。

書写の部では、 内閣総理大臣賞以下特別賞76点、筆都大賞727点

画の部では、 内閣総理大臣賞以下特別賞20点、筆都大賞 98点
が選ばれました。特選、金賞、銀賞、銅賞、入選の数や都道府県別の出品数は別紙のとおりです。

また、審査長の先生方の審査講評も別紙のとおりです。

入賞された皆さんはどうかこの度の受賞を大きな励みとされまして、書や絵画の作品づくりを続けていただきたいと思います。